



青学 大会新V



大会新記録で連覇した青学大の小河原陽琉選手（3日午後、東京・大手町の読売新聞社前で）＝高橋美帆撮影

復路トップ譲らず
連覇

第101回東京箱根間往復大学駅

伝競走（関東学生陸上競技連盟主催、読売新聞社共催）は3日、神奈川県箱根町の芦ノ湖駐車場入り口から東京・大手町の読売新聞社前までの5区間、109.6キロで復路が行われ、往路優勝の青山学院大が一度もトップを譲らず、前回に続く大会新記録の10時間41分19秒で2年連続8度目の総合優勝を飾った。

往路4位の駒沢大が復路優勝で総合2位、昨秋の出雲全日本大学選抜駅伝、全日本大学駅伝に続く大学駅伝3冠を目指した国学院大は3位。往路3位の早稲田大は4位、同2位の中央大は5位だった。

青山学院大は6区で野村昭夢（4年）が区間新の快走、8区の塩出翔太（3年）、10区の小河原陽琉（1年）が区間賞の走りで首位を守った。

駒沢大は7区の佐藤圭汰（3年）が区間新の力走で2位まで追い上げたが、逆転はならなかった。

6位城西大、7位創価大、8位東京国際大、9位東洋大、10位帝京大。10位までが次回のシード権を獲得した。
（記録は速報値）